長久手市 文化財マップ

長久手市

長久手市の指定文化財一覧表

◆国指定文化財

種　別	名　称	所 在 地	指定年月日
史　跡	長久手古戦場 附　御旗山 首塚 色金山	武蔵塚205外5筆 富士浦602 岩作元門41 岩作色金37の1内一部	昭和14年9月7日

◆県指定文化財

種　別	名　称	所 在 地	指定年月日
無形民俗文化財	長久手の棒の手	長久手市	昭和31年6月21日
	岩作の「オマント」	岩作地区	昭和60年11月25日
	長淑の警固祭り	長淑地区	平成17年3月22日

◆市指定文化財

種　別	名　称	員 数	所 在 地	指定年月日	所有者等
史　跡	長久手合戦史跡 ・長久手城趾 ・堀大郎秀政 本陣地跡 ・木下勘解由塚	3か所	城屋敷2408、2409 坊の後113 荒田9-1	昭和58年2月26日	長久手市
	神明社第2号古墳	1基	神門前420-1	平成3年5月27日	神明社
	三ケ峯第3号窯	1基	岩作三ケ峯1-16	平成9年3月4日	石作神社
有形文化財	木造薬師如来坐像(円空仏)	1躯	杁ノ洞2331	昭和59年7月17日	永見寺
	旧北熊村の古文書	220件	岩作城の内60-1	昭和63年7月19日	北熊区
	御書（円遵筆） 付　黒漆蒔絵箱 付　黒漆四脚台座	1巻 1合 1脚	岩作城の内60-1	昭和63年7月19日	長淑 日表講 長淑 宮脇講
	神明社の棟札	12枚	神門前420-1	昭和63年7月19日	神明社
	神明社の石造鳥居	1基	神門前420-1	平成2年2月8日	神明社
	多度神社の石造鳥居	1基	前熊志水108-1	平成2年2月8日	多度神社
	景行天皇社の棟札	38枚	西浦401	平成12年2月10日	景行天皇社
	丁子田1号窯・市ケ洞1号窯出土刻銘須恵器	10点	武蔵塚204	平成25年1月31日	長久手市
	木造阜馬天立像(円空仏)	1躯	前熊橋ノ本18	令和7年7月1日	前熊寺
無形民俗文化財	長久手の警固祭り	1地区	上郷地区	昭和58年6月11日	前熊区 大草区 北熊区
有形民俗文化財	前熊の山車	1台	前熊志水108-1	昭和58年6月11日	前熊区
	馬の塔図絵馬	1面	松杁1855	昭和58年12月12日	三光院
	猿投三社大明神祭図	1幅	岩作宮後17	昭和60年7月15日	石作神社
	岩作村西之切画軸	2対4躯	西浦401	昭和60年7月15日	景行天皇社
	陶製御深井釉狛犬	1対2躯	岩作宮後17	昭和63年1月11日	石作神社

長久手市郷土資料室（※令和7年12月1日閉室予定）
長久手合戦400年を記念し昭和60年、古戦場公園に開室。長久手合戦の資料のほか、オマント（警固祭り）や棒の手など市の民俗資料も展示しています。
■所 在 地／武蔵塚204番地
■開室時間／9：00～17：00（入室は16：30まで）
■入 室 料／無料
■休 室 日／月曜日・祝日の振替日・12/28～1/4
■T　E　L／0561－62－6230
■駐 車 場／普通車のみ（工事等の状況により変動）

長久手古戦場記念館（令和8年4月開館予定）
小牧・長久手の戦いの主戦場跡地である国指定史跡「長久手古戦場」を語り継ぐ記念館が開館予定です。
史跡地の距離感・臨場感を体感できるデジタルコンテンツや長久手合戦図屏風（復元模写）を展示する予定です。

■編集発行
長久手市　生涯学習課
〒480-1196　愛知県長久手市岩作城の内60番地1
TEL.0561-56-0627
HP　https://www.city.nagakute.lg.jp
令和7年10月発行　第7版

文化財愛護シンボルマーク　文化財を守ろう

VEGETABLE oil INK

長久手合戦史跡

本能寺の変で倒れた織田信長の後継者争いの中で、立場を強めていく羽柴秀吉。脅威を感じた信長の次男信雄は、徳川家康に助けを求め、家康もこれに応じました。天正12年（1584年）3月に挙兵した両軍、秀吉方の犬山城攻略の影響で尾張が主戦場となりました。犬山の羽黒での戦いの後は、小牧付近で膠着状態が続きましたが、先に動いたのは秀吉方でした。家康の本拠地岡崎を攻めるため、三好秀次（秀吉の甥、後の関白）を総大将とする別働隊を送りましたが、その動きを察知した家康も軍を動かし迎撃しました。こうして同年4月9日、長久手で激しい戦闘がおこりました。

この日の戦いで、秀吉軍は池田恒興（勝入）・元助（庄九郎）の父子、森長可など有力な武将を失い、家康軍が勝利しました。しかし、その後、秀吉は信雄と和睦、家康を傘下に入れ、信長の後継者としての地位を確立します。家康は、秀吉に臣従こそするものの、その政権下で別格の地位を保ち徳川政権樹立の足がかりを固めていきました。

1 勝入塚（国指定史跡）　Map E-7

秀吉方の武将、池田恒興（勝入）戦死地と伝えられます。矢った「明治の碑」は、明治24年に恒興の子孫が建立しました。その左横の石柱「明和の碑」は、明和8年（1771）尾張藩士人見彌右衛門と赤林孫七郎が古戦場を訪れた際、立てたものです。彼らは、同藩士の福富親茂が先に立てた標木が朽ちて遺跡が滅失しつつあるのを嘆き、造立しました。彼らのほかにも尾張藩士が顕彰のためこの地を訪問した記録があります。

2 庄九郎塚（国指定史跡）　Map F-6

池田元助（之助とする書もあり／幼名庄九郎）の戦死の場と伝えられます。元助は池田恒興の長男で、父とともにこの地で戦死。恒興同様、「明治の碑」「明和の碑」があります。また庄九郎塚の左側「勝道九兵衛秀龍討死之墓／池田一族」と刻まれた石柱も長久手合戦にちなむものと見られます。

3 武蔵塚（国指定史跡）　Map F-6

森長可（美濃国金山城主）の戦死地とされ、官名にちなんで武蔵塚とよばれます。勇猛果敢な武将として知られ「鬼武蔵」とも呼ばれました。人見・赤林による「明和の碑」と、子孫が明治31年に立てた「明治の碑」があります。

4 御旗山（国指定史跡）　Map D-6

色金山に兵を進めた家康は、秀吉方の様子をうかがいながらこの山に進軍し、頂上に金扇の馬標を立てました。後年、地元の人々がまつった富士社が山頂にあり、その拝殿前に「御旗山」と記す石柱があります。

5 首塚（国指定史跡）　Map C-7

岩作村安昌寺の雲山和尚が、合戦で戦死した多くの将兵の屍を集めて塚を築き、手厚く葬った跡とされます。首塚は、『尾張名所図会』の「色嶺」の頁でも安昌寺に通じる路脇にはっきりと描かれています。塚上に宝永3年（1706）の福富親茂の碑や明治43年（1910）の地元有志の漢文碑が立てられました。

6 色金山（国指定史跡）　Map C-8

秀吉方岡崎別働隊を迎って北方から進軍してきた家康軍が軍を止め、山頂の巨石を床机がわりに軍議を開いたと伝えられます。その巨石「床机石」の傍らに宝永3年の福富親茂の碑、明治43年の地元有志の漢文碑が立ちます。床机石を少し南へドンと山中には、家康方の武将で長久手合戦で戦死した伴若狭守盛兼の墓碑もあります。色金山は、尾張国八郡の名勝・旧跡を網羅し図説した江戸時代後期の名所要覧『尾張名所図会』でも、「色嶺」として一頁を使って紹介されています。

7 長久手城趾（市指定史跡）　Map E-5

長久手合戦の折り、徳川方の丹羽氏についていた加藤太郎右衛門忠景の居住跡。忠景は、義弟岩崎城主丹羽氏次の留守を預かって奮戦しましたが、岩崎城は落城、戦死しました。文化6年（1809）、城跡に加藤氏末孫の尾張藩士が立てた石碑が現存します。

8 堀久太郎秀政本陣地跡（市指定史跡）　Map D-5

秀吉方岡崎別働隊の軍監だった堀秀政が、三好隊を迫う徳川勢を迎え撃つために陣を張った地とされます。「堀久太郎秀政本陣地」と刻む碑の当初の設置年・位置・造立者は不明ですが、昭和45年（1970）に松ケ根山頂に置かれ、区画整理で若干移動して現在位置に立てられました。

9 木下勘解由塚（市指定史跡）　Map C-3

白山林の戦いから敗走してきた総大将三好秀次に、木下勘解由利匠が自分の馬を与えて逃げさせ、追ってきた徳川勢と奮戦し、兄の木下助左衛門始久（周防守）とともにこの地で戦死しました。石碑は、昭和54年（1979）の建立。東50mに木下周防守戦死地とされる塚があります。

オマント（警固祭り）
県・市指定の無形民俗文化財

「馬の塔（オマント）」は、馬の背に標具と呼ばれる札や御幣を立て、首や胴部も豪華な馬具で飾って、氏神や近隣の社寺へ奉納する祭礼。古くから尾張と西三河の農村部で豊年祭りとして行われてきました。馬を警護する鉄砲除や棒除などが列をなすことから警固祭りとも呼ばれます。

馬の塔がいつごろから始められたかは、定かではありませんが、いくつかの記録・伝承から中世末（およそ戦国時代）から近世（およそ江戸時代）初頭にかけて、馬の塔の形態が整えられていったと考えられます。

本市の祭りは、岩作（県指定）、長淑（県指定）、上郷（市指定）の三地区で行われ、昔の形をよく残しています。早朝には清めの儀式、坂難取りを行います。その後、馬宿とよばれる集合地点から隊列を組んで出立し、市内を行進、所々で火縄銃を一斉発砲します。岩作や長淑では、地域内を東西に分け、それぞれの地区（切と呼ぶ）内を練り歩いた後、合流します。その際は古式に従った形式で出会いの挨拶を交わしてから、神社へ向かいます。神社に入るときも氏子の代表者らに丁重に挨拶します。境内では、本殿を囲むようにつくられた道を周回し、3周目に入ると発砲を合図に人馬が境内を疾走、立てこみと呼ばれる勇壮な場面が見られます。その後、境内では、棒の手が奉納されます。社寺への献馬を終えた隊列は、地域内を回りながら、馬宿へと戻ります。

上郷地区

長淑地区

岩作地区

棒の手
県指定の無形民俗文化財

棒の手は、愛知県の代表的な民俗芸能の一つであり、県の無形民俗文化財に指定されているものが多くあります。棒の手の起源は、はっきりした資料がなく定説がありません。

棒の手の演技は、定型的な短い動作「手（型）」が基本で、「手」をいくつも組み合わせて一つの種目とします。「手」は、棒のみが「表芸」、キレモノといわれる得物を使う技が「裏芸」とされます。「手」には名称があり、巻物（目録）に記載されます。初期のものは動きも少なく「手」の量も多くありませんでしたが、他の武芸の影響を受けて内容が大きく変わってきたようです。

市内には四流派（見当流、起倒流、鹿羽検藤流、藤牧検藤流）があり、それぞれ特徴があります。

棒の手は、技を習得すると師匠（役し主）から奥義の口伝と巻物が相伝されてきました。巻物は秘伝でしたから、本来当人が亡くなれば焼却するか、神社に奉納することになっていました。今日残っている巻物の多くは、「死に巻」といって、偽然にも、子孫や仲間うちで保管されてきたものです。

棒の手巻物

神社での奉納演技

寺社と文化財

10 聚福院　Map D-3

曹洞宗の寺院で、尾張三十三観音の三十一番札所です。昭和42年に名古屋城下の東寺町から移転しました。

11 豊善院　Map E-4

いわゆる修験道に属する真言宗醍醐派の寺院。長淑のお薬師さんとして親しまれています。

12 常照寺　Map D-4

浄土真宗高田派。長淑村の村寺で、三将の墓石と伝わる古い五輪塔があります。

13 豊龍院　Map D-6

真言宗醍醐派。岩作のお薬師さんとして知られており、室町時代の作と伝わる古い仏像のほか、境内には山ノ神の祠などがあります。

14 教圓寺　Map C-7

浄土真宗高田派。岩作村の村寺で本尊は阿弥陀如来です。江戸時代、寺子屋が置かれたこともあり、境内には筆塚と呼ばれる碑（写真）もあります。家康寄進と伝わる葵の紋付陣羽織が伝わります。

15 安昌寺　Map C-8

曹洞宗。合戦後、雲山和尚が戦死者を手厚く供養したというので、後年、尾張藩主をはじめ多くの藩士が当寺を訪れ、合戦にまつわる各種の書付を残しました。また丹羽氏次の田畑寄進状などの文書やうわばみという大蛇の説話絵馬（写真）など美術工芸品も伝わります。8月10日、観音堂の九万九千日の祭りには多くの人で賑います。

16 前熊寺　Map D-10

曹洞宗。中世に、当地の豪族福岡太郎左衛門が建立したのが始まりといわれています。境内には、かつて津島神社の社殿であった建物が、現在も前熊の郷蔵として残されています。また円空作の阜馬天立像（市指定文化財／写真）も伝わります。

17 観山寺　Map C-9

曹洞宗。明治初期に地元の人の私庵として創建された尼寺で、昭和17年（1942）に現在の名称になりました。

18 昌隆寺　Map D-9

曹洞宗。安昌寺の末寺でした。前熊村に古くから伝えられた薬師像が本尊です。

23 富士社　Map D-6

駿河（静岡県）に本社がある富士浅間神社の先達・青山重太夫という人が創建した富士山信仰の社。長久手合戦史跡「御旗山」の碑が境内にあります。

24 石作神社　Map C-7

岩作村の氏神として尊崇されてきました。承和元年（834）頃開基と伝わり、祭神は石作連の祖、建麻利尼命。古代の法典「延喜式」にも記されています。

また天保9年（1838）製作の「木造恵比須天・大黒天」（市指定文化財／写真）も祀られています。

同社所蔵の「猿投三社大明神祭図 岩作村西之切画軸」（市指定文化財／写真）は、明治時代中頃、岩作村生れの浅井金左衛門（雅号喜扇玉山）の作です。天保年間に行われた猿投神社の大祭に、岩作村が警固隊列を仕立てて参加した様子を描いています。対を成す「岩作村東之切画軸」（未指定）が存在します。

25 直会神社　Map C-6

神事が終わって神に供えた神酒や食物をおろしていただく酒宴「ナオライ」が行われた場所と考えられます。地元の文人浅井菊寿の碑（写真）もあります。

19 永見寺　Map B-10

江戸時代初期は臨済宗の寺でしたが、後に曹洞宗になったと伝わります。本尊は市内最古の仏像といわれる地蔵菩薩立像です。また円空作の「木造薬師如来坐像」（市指定文化財／写真）も伝わります。

境内には岩廻間から移された小五郎松の碑があります。

20 三光院　Map C-10

真言宗醍醐派。「馬の塔図絵馬」（市指定文化財／写真）の所蔵寺として知られています。絵馬には、大草村の祭礼「馬の塔」で、飾り馬の背に赤わくの標具を乗せて献馬する様子が描かれています。天和元年（1681）、三光院に奉納されました。後年補色したため文政2年（1819）に加彩したと銘文があります。

21 宗延寺　Map D-11

浄土真宗高田派。北熊の村寺で本尊は阿弥陀如来。境内に祀られている大日如来像は、室町時代のものといわれます。この地域では、大日サンと呼ばれる祭りが続けられており、8月14日にはお供え物をもった地元の人が集まります。

22 景行天皇社　Map E-5

長淑村の氏神です。社伝によれば承和4年（837）の創建で、日本武尊の父、景行天皇を祀ります。「景行天皇社の棟札」（市指定文化財／写真）は、江戸時代のものがほとんどですが、享禄3年（1530）のものが2枚あります。同社所蔵の「陶製御深井釉狛犬」（市指定文化財／写真）は、宝暦3年（1753）製作。狛犬としては模範的な形状で、宝暦年間以前の様式がうかがえます。背面に刻まれた「双岩牛者」の文字から、この狛犬は長久手村の若衆が氏神の景行天皇社に奉納したもので、その時代に若衆制度があったことがわかります。

26 御嶽神社　Map C-8

安政2年（1855）、岩作高根山に木曽御嶽の分霊を祀ったことに始まるといわれる神社です。

27 多度神社　Map C-10

前熊村の氏神です。水の神様として知られる多度神社の「石造鳥居」（市指定文化財／写真）は、寛文元年（1661）建立。形式は明神鳥居です。天王祭りが開かれる際は境内に「前熊の山車」（市指定文化財／写真）が曳き出されます。この山車は、名古屋の古出来町から譲り受けたと伝わります。構造的には、輪掛付外輪、胴山上に高欄が付き、上山道上げ可能で、梵棒が付きます。屋根は、起り破風形で、上面には押障子が使われています。素朴な形式ですが、名古屋山車の古い形式を知る上では貴重な山車です。

28 熊野社　Map B-10

大草村の氏神です。古くは八幡社といったのを明治初期に熊野社と改称しました。境内に大草城跡の碑があります。

29 神明社　Map E-12

北熊村の氏神です。「神明社の石造鳥居」（市指定文化財／写真）は、寛文2年（1662）建立。形式は八幡鳥居に属します。また「神明社の棟札」（市指定文化財／写真）には、職人のほか村役人の名、願い文などが記されています。享保17年（1732）の造営棟札が最古です。

城　跡

市域では、鎌倉時代から戦国時代にかけて築かれた「中世城館」の跡がいくつかみられます。「城館」とは、堀や土塁などの防御施設を備えた軍事施設としての「城郭」と、領主たる城主一族の居住・儀礼（政治）空間としての「居館」といった二つの機能を併せもった施設です。天守閣などをもつ壮大な近世城郭とは異なり、大地を削り、土を盛り上げることによって築かれた「土の城」でした。

30 岩作城跡（岩作城の内）　Map C-7

市役所前の石碑

現在も地名に残るように、市役所の敷地周辺は岩作城の跡地です。昭和60年・平成10年の発掘調査で、城館に伴う堀・土塁・虎口などが、それ以前に築かれた中世集落の遺構を破壊する形で構築されていることが判明しました。城の建築・廃城年代は正確には不明ですが、出土遺物相の変化から、15世紀後葉ごろから16世紀後葉が城館期だと仮定できそうです。古瀬戸製品を多量に含む多彩で豊富な陶磁器が出土しました。特に注意をひくのは茶道具である天目茶碗。武家の居住空間ならではの遺物です。天保年間（1830～1844）に成立した地誌「尾張志」では、城主は今井四郎兵衛あるいは今井五郎太夫とされています。

天目茶碗

31 大草城跡（溝之杁・杁ノ洞・北浦）　Map B-9

大草城跡碑

土地はほぼ台形地で、現在は熊野社や畑などになっています。主郭を取り囲むようにして東郭や多数の中小の郭、帯曲輪、土塁などが配置され、折れを多く設けた城の構造から、永禄・天正期に修造されたとみられています。『尾張志』には、城主として福岡新助の記録があります。

7 長久手城趾（城屋敷）　Map E-5

長久手城趾碑

前出の加藤太郎右衛門忠景の居住跡。幅3～6m、深さ1.7～7.5mの堀割を挟んで、台形の平面をもつ東城と長方形の西城が並立する連郭構造であったことがわかっています。

32 岩作西城跡（岩作藪田）　Map C-5

『尾張志』に記された岩作村内の二つの古城跡のうち「西ノ城」にあたります。明治時代の地籍図上で堀地と宅地からなる区画らしき部分が城跡と推定されますが、詳細は不明です。

33 福岡太郎右衛門館跡（前熊橋ノ本）　Map D-10

現在の前熊寺の境内一帯がその館跡とされますが、構造など詳細は不明です。城主は前熊寺の前身和合寺の開基福岡太郎右衛門とされています。

その他

御　書（円遵筆／市指定文化財）
付　黒漆蒔絵箱　付　黒漆四脚台座

浄土真宗高田派本山専修寺の第十八世 円遵上人が、天明4年（1784）6月14日付けで、愛知郡高針村の蓮教寺と長久手村の常照寺の「十四日講」（十四日夜に営まれる念仏講）に与えた書です。巻子本。

34 堂　Map D-6

先達の行者堂

市内には仏像などを安置した堂があちこちにあります。役の行者（神変大菩薩）の行者堂、弘法大師（空海）の弘法堂のほか、大日堂、観音堂、地蔵堂、薬師堂、不動堂などです。

35 石仏　Map C-7

首塚前の辻観音

観音や地蔵の石仏は、より身近な守護者として巷におかれ、庶民の日常生活の中で敬愛されてきました。丸彫り、舟形浮彫りの像が、現在も道路の小堂などに置かれて、地域の人が花や供物を供えています。

36 道標　Map B-8

真行田の道標

市内には、三州道、八草道、山口道、岩作道、瀬戸・鳴海道、長淑道などの街道が通り、その道筋には道標（道しるべ）が立っていました。ほとんどが道路整備で寺院などへ移され、建立当初の位置に現存するものはわずかです。

37 常夜燈　Map C-10

江戸中期以降、防火の神として秋葉信仰が盛んになり、シマと呼ばれる地域区分ごとに石の常夜燈が立てられました。各戸が当番で、毎夜常夜燈に火を献上しました。

三光院の常夜燈（寛政12年）

38 山ノ神　Map C-7

岩作早稲田から移された教圓寺境内の山ノ神石祠

炭焼や木こりなどにとっての山ノ神は、自分たちの仕事場である山を守護する神。農民にとっては、春に山から下って田の神となり、秋には再び山に戻り山ノ神になるという信仰がありました。

39 庚申塔　Map C-10

永見寺の庚申塔

「庚申待ち」とは、干支で60日に1回巡ってくる庚申の夜に眠ると、天帝に命を奪われるという道教の説に従い、眠らずに健康長寿を祈念する行事です。市域でも広く行われ、講が結ばれ、庚申塔が造立されました。

40 八左衛門の墓　Map D-6

八左衛門という男がいて、乱暴者だったので、村人に生き埋めにされました。死に際に自らの非を悔り「頭下の病（目・鼻・口・歯・耳・頭の病）を直してやる」と言って息絶えたといいます。八左衛門はたいへんな大食家だったので、後の人々は彼の墓に食べ物を供えて病気平癒を祈願したと伝わります。

41 八大龍王の碑　Map B-6

立石池の堤の上に立つ大正2年（1913）の眉石碑です。この年は7月5日から48日間も雨が降らず、村内の3つの真言宗の寺の法印が大がかりな祈祷をしたところ、7日目に龍が黒雲を呼び、にわかに雨が降ってきたといいます。

42 喜婦嶽地蔵　Map G-5

昭和7年（1932）5月5日、喜婦嶽の地下70メートルの垂炭鉱で、大量の水が坑内にあふれ13名の坑夫が坑内に閉じ込められる事故が起こりました。その遺族者の霊を供養した地蔵です。

43 二本松塚　Map F-7

松の大木が2本あったのでこの名がつきました。長淑村のはずれで、オンカ辺り（虫送り）場になっていたため、オンカ松ともいいました。

44 耳塚　Map D-6

江戸時代、岩作には地誌に「百八塚」と記されるほど多くの塚がありました。耳塚は、来歴は不明ですが、耳の病気に効くといわれ、自然石らしい石が祀られています。

旧北熊村の古文書（市指定文化財）

現在の熊張地区東部にあたる旧北熊村の史料。近世初期慶文年間の「旧畑高覚」、宝暦元年以降約200年間の徴税令書「免状」、「張州府志」編纂のための村絵図控図などがあります。